

龜嘉敷

以上九十七人

右天保壬辰八月書上琉球國王使來朝人前

天保二年八月

中山王より呈書

謹呈一翰儀

公方様 内府様

大納言様並御機嫌様御被成
御座忍悦奉存儀然者尚瀬
隠居私々相續申付以付以使者
御禮申上儀從豊後守奉願儀
處如願被仰渡厚儀奉存儀
因茲御禮為下上今被豊後
王子居上之儀隨高御太刀二幅所馬
一足并目錄之通獻上之仕儀宜
涉執成奉願以誠惶謹言

四月九日

中山王 尚育判

青山下野守殿

紙の鳥の子のこころ

字乃
字體
紙の鳥の子のこころ
厚く先ッ生まにあひ
のこころやそ白
字後書ハ甲之改名
以而之

水野出羽守次
大久保加賀守次
松平和泉守次
松平周防守次

奉天

○前中山王よりの呈書

同文言

物者私隠居尚育に相續中付ん付
今般澤低敷方差上之

四月

前中山王 尚瀬 判

謹上 宛名 同日

○内府様より呈書 中山王

同文言

中山王

謹上 水野裁前守次
松平伯耆守次

○大納言様より中山王よりの呈書

謹呈一 執儀

公方様 内府様

大納言様益所極降被成御座
忍悦奉存候然者尚瀬隠居
私相續申付候付以使者御禮
中上候依從豊後守奉願儀
處如願被作渡辱次才奉存候
因之右之御禮

大納言様為之中今般豊見城
王子差上之随所方一腰御馬
一足并目録一通致上之仕候御
執儀奉願儀誠惶謹言

四月九日 前中山王 尚育 判
水野出羽守次
松平周防守次

前中山王よりの呈書

日文言

物者私隠居尚育に
相續中付ん付今般
澤低敷方

四月九日 前中山王

謹上 宛名 同日

水野出羽守次 同日
松平伯耆守次 同日
松平周防守次 同日

○御返翰事出

芳翰令披閱

公方様 内府様

大納言様益御機嫌往來

御座忍悦旨也此後

御礼為中と今度以使者

豊見城王子如目録執上

御前は 石出

御表色は依り松平大隅守

可申述い忍滞り

国土月七日 連名

中山王 回答

○前中山王より御返翰

○西九より

回答

西九連名

○西九より

日文言

段指し御礼以使者

以紙狀方

芳翰令披閱

公方様 内府様

大納言様益御機嫌往來

御座忍悦旨也此後

御礼為中と今度以使者

澤紙狀方如目録執上

御前は 石出

御表色は依り松平大隅守

可申述い忍滞り

国土月七日 連名

前中山王

回答

○大納言様より御返翰

芳翰令枝更

上方様 内府様

大御言振益所極嫌能成御座
多悦旨むいれも相違い少礼

大御言振為下上今度以使者
豊見振王子如目録執上右様

逐枝更い香

御長色いぬい枝に平久隔可
申述い為り御座

同上月七日

西丸

連名

中山王

四巻

○御基様より

日文言

及所い少礼以使者
以紙執方

芳翰令枝更

御基様益所極嫌能成御座
多悦旨むいれも相違い少礼

為下上今度以使者豊見振
王子

御基様如目録執上右様

逐枝更い香

御長色いぬい枝に平久隔可
申述い為り御座

同上月七日

連名

中山王

四巻

○御基中様

芳翰令枝更

御基中様益所極嫌能成御座

前中山王より

日文言

及所い少礼以使者
以紙執方

御基様

正收者むい物と相續し御札為可
 上今度以後使者豊見城より
 御意申極如目録執上より右に執
 遂被る御意
 御意申極如目録執上より右に執
 中述の事と謄令
 西九
 連名
 同三月七日
 中山王
 四等

日文言
 隠指し御札以後使者は波
 御方
 御意申極
 西九
 連名
 同三月
 前中山王
 四等

右謹按正徳迄も漢文也寛延以来和字也奉書也文化所迄
 中山王叔ト有之今亦ト云々又文格も執上而も其時ト云
 務有之也慶賀使恩封使之差別ト有之也且隠指家
 督ハ今度初例之是迄ハ皆平後の家督也隠指ト有之也
 伺不御故ト云何ト云也今度新例也

天保三年十月五日 行由の御書付

近日琉球人の事花の事とはいふ所中不徳法に依
 意及下付、之物は元底の印も不之在出の琉球人
 通りの事也びさし、之を仕り受たり

一 琉球人の事花の事とはいふ所中不徳法に依
 隣町との合並能は、琉球人の事とはいふ所中不徳法に依
 前積子桶出、御掃除は琉球人通りの事也打可
 一 事

一 五本戸揚の家、中戸、付指、御書、御書、御書、御書
 付、琉球人の事

城之日次は夏是より右に自前事
右に通文館内より町中を路入るるに
右の

十月廿九日

琉球人今奉府内又物に互に有る大勢を以て町中にて
と向う勢りきり健身に降るに二七のりとの事なり
柳の仕事

一 琉球人通るに各町一人を従者として以て行抵り
之れを仕事子知者有るに取集致し又之れを事せ

山の丘怪我人亦有るに難中より近の琉球人等
城界の山の東より西に中より奉事者凡そ在城の節系止地
所系者各地也之知り居るに町々横町亦有るに不
去琉球人通るに少くも亦中達するに所々所々
喰遠升と云ふ波の心で駕籠亦通るに亦亦之れ琉球
人通るに即して人等二波の節用事なりと云ふ事病中
或るといふも亦亦も系是怪に以て分て相通するに
右に通町中より相通

十月十二日

薩列侯

中役

豊見城

豊見城

わし海の宿より出て日本の方より来た人
たること志しきにける様におのり候事

澤紙

しるしを承り候事

天保乙酉年十月

琉球人登 城通市

紀伊殿屋修殿より紙の通市

山形中の方若年奉祝日記

上堂 御宮より諸回

通市より中の方より

琉球人登 城通市 書附

一 芝杉平大階より登り將監様坊より寺より表山門前より
通市芝口橋際より左より表橋より入松平大階より登り
表松杉平に志し候事大階より表殿前通